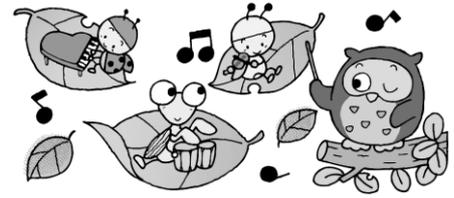


学校と家庭をむすぶ

石神井台小学校

石台だより

〒177-0045 練馬区石神井台8-6-33 TEL3928-7124



平成25年11月1日 No.439

その子らしさを大切にすることで、その子はさらに輝きます

校長 渡邊 浩一

2学期がスタートしてから2週間が過ぎましたが、子供たちは元気に登校し、順調に楽しい学校生活を送っております。これもひとえに、日頃から子供たちを見守っていただいている保護者や地域の皆様のお陰と心から感謝申し上げます。

私たちは、「その子を輝かせたい」という共通の願いを抱き、子供と関わる大人としてできることに精一杯力を注ぎながら、子育てや教育活動、児童の健全育成に努めています。今は、さまざまな不安のある時代であり、いろいろな情報も溢れています。子供と関わる大人にできることは、情報に振り回されず、その子自身の輝きや素敵なところの源を見付けて大切にすることです。そうすれば、子供たちは自分の力に気付くことができ、さらに「自分を輝かせる」ことができるようになるのではないのでしょうか。今回は、このことを皆様と一緒に考えてみたいものです

「私の気持ち」を伝えよう！ 子供が輝いている瞬間を見たとき、そのことをどう伝えますか？「音楽交流会、とても頑張ってたね」「本をたくさん読んで偉いね」これらは、いずれも主語は「私」ではなく、「あなた」です。ほめているとしても「頑張ったあなた」「偉いあなた」を限定して褒めている感じがします。

「私」を主語に言い換えるとどうでしょう。「あの音楽交流会、あなたの頑張りに感動したよ」「本をたくさん読んでいる姿を見て、頼もしく思ったよ」となります。子供の様子を見たときに、どんな気持ちになったかを伝えることで、子供は自分がどんなときに輝いているかを知るだけでなく、親や周りに喜びや元気を与えられる存在であることに気がきます。何か特別なことをしなくても、自分が好きなこと、得意なことで輝くことが周囲の人に役に立つことを知ります。そのことで、子供の「自己肯定感」が育ち、自分は自分と関わる人にとって、かけがえのない存在であるという自信をもって育っていきます。

温かさを感じるコミュニケーション 「前よりもまた成績が上がったね。よく努力して勉強したからだね」この言葉は、子供を褒め、その努力を認めている感じがします。しかし、これは、努力して成績を伸ばすことが重要と考える親や大人の価値観を伝えているものです。言葉は、人をやる気にしてくれることもありますが、時には見えない圧力として、心の負担になってしまうことがあります。子供によっては、「次の学期はもっと努力しないと喜んでもらえない」というプレッシャーを感じることもあるかもしれません。

例えば、言葉でねぎらうだけでなく、「おおっ、やったね！」と握手やハグをしてみてもどうでしょうか。高学年でも、ハグをされると照れくさいながらも嬉しいものです。親や大人が喜びを体で表現したり、温かさを感じるコミュニケーションを心がけたりすると、子供は大切に思われ、見守られていることを言葉以上に感じるすることができます。自分の気持ちや行いに自信がもてるようになり、それをこれからの生活に生かすことができるようになります。

学校は保護者・地域の皆様と連携し、これからの社会を担う子供たちが、さらに「自分を輝かせる」ことができるように「自己肯定感」をふくらませ、夢や目標にチャレンジする意欲をはぐくめるように努めてまいります。

展覧会のご案内

11月29日（金）～30日（土）に展覧会を開催します。展覧会は、児童が学校生活を楽しく豊かなものにするため、互いに努力を認めながら協力して、美しいもの、よりよいものをつくり出し、互いに発表し合うことにより、自他のよさを見付け合う喜びを感得するとともに、自己の成長を振り返り、自己を伸ばそうとする意欲をもてる行事です。本年度のテーマは「思いを かたちに」です。体育館、視聴覚室が、子供たちの作品で石神井台小学校美術館に変身します。

展覧会のご参観をお待ちしております。